

表 4-1：NGO 事業補助金の目的 の達成度（4 事業の例）

補助金累計 交付実績 (1997～2001 年)	1) 草の根レベルの成果が できているか？*	2) 地域住民のニ- ズにかなった事業で あったか？	3) 地域住民の参加が得られ、自立発 展性があったか？	4) 女性の裨益があつた か？	参考					
	受益者				効率性	目標達成度	インパクト			
<p>金光教平和活 動センター</p> <p>栄養改善 教育</p> <p>20,452,943 円 (1999年 ～2001年)</p>	<p>不法居住区の工場地帯 の中の貧しい地区を支 援しており、地域レベル で利益が見られた。</p> <table border="1"> <tr> <td>子 マ ラ ボ ン 市 ポ ト レ ロ 地 区</td> <td>子 マ ニ ラ 市 ド ン ト 地 区</td> <td>子 セ ブ 島 マ ン ダ ウ 工 市</td> </tr> </table>	子 マ ラ ボ ン 市 ポ ト レ ロ 地 区	子 マ ニ ラ 市 ド ン ト 地 区	子 セ ブ 島 マ ン ダ ウ 工 市	<p>マラボンの例：地域 のニ-ズに基づい て、POが既にあり、 その活動を支援す る形で金光教が支 援を始めたので、地 域住民のニ-ズに 合致しているとい える。</p>	<p>カウンターパートNGOが地域の POの要請に対して支援を始めた ものであり、ボトムアップの活動 である。住民組織の活動が先にあり、それに支援を行うという形を 取っている。例えば、POには主 体性があり、ボランティアの母親 が教師となる、給食を作る等して いる。また、教室が小さいという 現在抱える問題を自分達で解決 するため、近くにある教会の一室 を利用できないか等、策を講じて おり、PO自体に主体性が見られ た。POの自立を視野に支援を行 っていた。</p>	<p>活動が小学校就学前の 子供の給食活動を通じ た栄養改善と教育を行 うものであり、活動の 実施者は母親であり、 彼らは金光教から教育 を受け、教師としての 自信を得る等の便益を 受けている。</p>	<p>補助金交付 額の約 27% (84.5万 円)が給食費 に当てられ ている。事業 の自立性を 高めるため の事業に使 えないか？ (2001年度)</p>	<p>継続事業のため必ずしも毎 年目標を定め ていなかった。</p>	<p>教師として参加す る女性が 自信をつ けた。</p>
子 マ ラ ボ ン 市 ポ ト レ ロ 地 区	子 マ ニ ラ 市 ド ン ト 地 区	子 セ ブ 島 マ ン ダ ウ 工 市								
<p>銀鈴会</p> <p>食道発声 トレーニング</p> <p>501,000円 (2000年)</p>	<p>喉頭摘出者 25 名 およびその家族</p> <p>今まで喉頭摘出者に対 するリハビリはフィリ ピンでは行われていな かったので、彼らを対象 に行っているプロジェ クトであることは有益 である。</p>	<p>1996年に銀鈴会の 独自の活動として、 食道発声に関する シンポジウムが行 われた。1997年に フィリピン医師 のイニシアティブ の下、喉頭摘出者ク ラブが設立されて いた。そのクラブ が、現地へ日本人が 訪比し技術移転を 行うことを望んで いた。従って、数は 少ないがニ-ズが あったといえる。</p>	<p>患者が作ったクラブの要請を受 けて、NGO 事業補助金事業を行っ た。クラブは主体性を持って活動 を広げようとしており、資金調達 や発声技術の取得のため、研修を 設けようと積極的に取り組んで いる。自立性・主体性が見られる。</p>	<p>喉頭がんの最大の原因 は喫煙であり喉頭摘出 者の中には女性は1名 であった。また、患者 の問題は家族の共通の 問題でもあり、患者の 妻達のグループがで き、キャンドル作りを 行い活動資金集めの活 動が開始されている。 このような形で女性が 参加している。</p>	<p>人工喉頭と 発声補助装 置という必 要最低限の ものだけに、 補助金が使 われている。 効率性が高 い。(2000年 度)</p>	<p>予定した患者 が100%声を 取り戻した。 達成度は高 い。</p>	<p>患者の妻 達の間で、 活動資金 を稼ぐた めの活動 が生まれ た。</p>			

(表 4-1 つづき)

補助金累計 交付実績 (1997～2001 年)	1) 草の根レベルの成果 が出ているか？	2) 地域住民のニーズ にかなった事業であ ったか？	3) 地域住民の参加が得られ、自立発 展性があつたか？	4) 女性の裨益があつた か？	その他		
	受益者				効率性	目標達成度	インパクト
地球ボランティ ア協会 保健 教育 35,636,624 円 (1997年 ～2001年)	20 箇所合計 地区リーダー100名、 児童・母親 19,000 人、女性ボランティア 500名 最貧層への直接支援と いうより、地域のボラ ンティア育成に重点が 置かれている。	他の NGO も入り込 んでいるような地 域のニーズが明確 にあるところで活 動をしていた。(メ リーランド地区)。 また、活動対象地区 20 箇所については ニーズの審査を行 い、決定している ということであるが、 確認は出来ていな い。	カウンターパートがボランティ アを募り、教育、医療活動等を行 う。ボランティア育成という意味 では、ボランティアは適正に育成 され、主体的に活動を行っている といえる。そのボランティアは地 域住民の参加を得て活動を行っ ているが、地域住民と一緒にボラ ンティア自らが解決策を見出し ていくという計画段階からの開 発を担っているわけではない。ボ ランティアの育成、派遣活動にと どまっている所がある。	女性のボランティア育 成がカウンターパート の理念であり、実際に 女性のボランティアが 育成されているよう であった。(あいにく現地 調査ではこれらのボラ ンティアスタッフの活 動は月に1回と限られ ているので、会うこ とは出来なかった。)ま た、保健医療活動や、 教育活動を通じて便 益を受けていること は分かった。	教材費 (136.8万 円) 専門家等 人件費 (187.5万 円) 巡回用車 両購入費 (150万円) 現 地補助員費 (187.5万 円) 人件費等 への支出が大 きい。どれだ け、地域の最 終的受益者に 効果が反映さ れたのか不明 である。 (2001年度)	成果1～3に 対する目標達 成度を自己評 価している。 成果1に対し て、80%、成 果2に対し 75%、成果3 について 85%と評価し ている。しか し調査団とし ては、現地域 を調査したわ けではないの で、適正な評 価は出来な い。	今回の現 地調査で は判断出 来なかつ た。
日比ボランティ ア協会 無料巡回医療 活動 母親学級 給食活動 授産活動 村の小学校保 健室へ薬を配 布 15,410,000 円 (1997 ～2001年)	児童 250 人から 700 人 日系人を対象として いる。直接の活動を行 っており、対象住民に届 いているといえる。(支 援対象がはじめから設 定されている。)	戦後、ダバオ付近に 暮らす、貧しい日本 人に対する支援から 活動が開始され、 続いて地域社会の 医療、教育支援の活 動に広げている。当 時ニーズはあつた。 現在もそれを引き 続き行っている。現 在も他の地域に比 べて高いニーズが あるかどうか、分析 は行われていない。	日系人支援という活動が先にあ つた。日系人の活動力の強化に繋 がった。住民の自助努力、自立発 展まではプロジェクトに組み込 まれていない。考えていない。山 の保健室への薬の配布活動や、貧 困集落での給食活動は慈善活動 的なことにとどまり、地域住民に よる主体的な活動にまで繋がっ ているとはいいがたい。現地 NGO 担当者は改善策を検討中であ つた。	給食活動や、学校の保 健室への薬の配布活 動による、子供への直接的 支援を目的にして おり、母親学級の実施や 子供への給食活動への 参加により、女性も便 益を受けている。し かし、より女性が子供 の教育プロジェクト 等に関わる等の活動 の展開が期待され る。また、日本の 老人介護をフィリ ピンの女性が担うた めの研修が実施され ている。女性の有力 な収入源になるこ とは予想されるが、 女性の尊厳の確保が 十分に配慮されるこ とが重要である。	薬剤費、医師 等人件費にそれ ぞれ100万 円ずつ、使わ れている。同 じく地域の自 立を高める活 動につなげら れないか？ (2001年度)	継続事業のため 必ずしも目 標を定めてい なかった。	今回の現 地調査で は判断出 来なかつ た。